



TITLE:

当所の活動

AUTHOR(S):

CITATION:

当所の活動. 木材研究資料 1976, 10: 151-152

ISSUE DATE:

1976-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/51262>

RIGHT:

当 所 の 活 動

(1975年3月～1976年1月)

講 演

第25回 日本木材学会大会

(昭和50年4月5日～7日, 福岡)

田中利秋, 則元 京, 山田 正: 木材の構造と誘電特性(Ⅲ)

則元 京, 山田 正: γ 線照射木材の誘電特性

大金敏正, 山田 正: 木材の高次構造の粘弾性(V)

角谷和男, 山田 正: 木材の生長応力に関する一考察

青木 務, 山田 正: 木材のケモレオロジー(Ⅳ)
—濃度依存性—

野村隆哉, 山田 正: モウソウ竹の生長過程における
クロシンとリグニンの関連性

(木材物理部門)

西本孝一: 木材用着色塗料の防腐性能について

西本孝一, 角田邦夫: LVLの耐朽性におよぼす
ミナ厚さの影響

西本孝一, 松尾治夫: 殺虫剤の殺蟻効力の経時変化
について

高橋旨象, 西本孝一: 酸ならびにアルカリ処理針葉
樹材に対する軟腐朽菌の作用

角田邦夫, 西本孝一: フナクイムシの繁殖期および
食害度・生長速度の季節的变化

伊東隆夫: 一次壁形成時における軸方向の微小管の
存在 (木材生物部門)

榎 章郎, 高浜茂博, 北尾弘一郎: メタセコイアの
抽出成分(Ⅰ) (木材化学部門)

五井 明, 増田 稔, 満久崇磨: 木質材料の視感覚
特性

瀧野真二郎, 満久崇磨: 木質パネルの応力解析(Ⅱ)

増田 稔, 満久崇磨: 合板の有限変形および座屈の
解析(Ⅲ)——非対称構成および偏心荷重の座
屈的挙動に与える影響, および面内力分布とパ
ネルの破壊について——

金田 弘, 満久崇磨: 木質材料の耐候性に関する研
究——表層劣化と強度的性質に関する一考察

金田 弘, 満久崇磨: 木質材料の耐候性に関する研
究——構造用合板の屋外暴露試験

佐々木光, 金田 弘, 満久崇磨: 木質暖房床材料の
研究(Ⅲ)——乾湿サイクル下の材質劣化につ
いて

小松幸平, 佐々木光, 満久崇磨: ラップ継手の破壊
強度について

作野友康, 満久崇磨, 佐々木光: 衝撃接着力に及ぼ
す接着層のフレキシビリティの影響

石原茂久, 棚田敏秀, 満久崇磨, 近藤三十四: 難燃
性パーティクルボードに関する研究

南 正院, 小林俊彦, 満久崇磨: ラワン材アスプル
ドパルプ-MMA グラフト 共重合物より調製し
た繊維板の性質 (木質材料部門)

佐藤公彦, 中坪文明, 樋口隆昌: キノノメタイトの
反応性に関する研究

藤本英人, 樋口隆昌: リリオデンドリンの生合成に
関する研究

山崎 徹, 幡 克美, 樋口隆昌: シナピルアルコール
の酵素的脱水素重合物について

(リグニン化学部門)

第29回 木研公開講演会

(昭和50年5月23日, 大阪)

中坪文明: *p*-クマルアルコールの脱水素重合につい
て (リグニン化学部門)

林 昭三: しろありの話 (木材生物部門)

山田 正: 建材の機能と木性材料設計
(木材物理部門)

第30回 木研公開講演会

(昭和50年10月17日, 宇治)

満久崇磨: パーティクルボードの最近の問題
(木質材料部門)

黒田宏之: リグニン生合成における *O*-メチル基転
移酵素の役割 (リグニン化学部門)

榎 章郎: メタセコイアの抽出成分について
(木材化学部門)

金田 弘: 外力下における合板の接着耐久性

(木質材料部門)

青木 務：木材のケモレオロジー (木材物理部門)

伊東隆夫：1次壁におけるマイクロフィブリルの配向

(木材生物部門)

第20回 リグニン化学討論会

(昭和50年10月20・21日, 名古屋)

黒田宏之, 樋口隆昌：ヤドリギリグニンの生合成

(リグニン化学部門)

棚橋光彦, 武内英夫, 樋口隆昌：3, 5-二置換, α -

ヒドロキシケイヒアルコールの脱水素重合

(リグニン化学部門)

第5回 木材の化学加工研究シンポジウム

(昭和50年10月9・10日, 京都)

石原茂久：尿素およびメラミンのホルムアルデヒド

初期付加縮合反応生成物とホウ酸・アルカリ金

属による木材および木質材料の防火処理

(木質材料部門)

第40回 日本植物学会大会

(昭和50年11月1日～3日, 大阪)

伊東隆夫：クマリンおよびコルヒチン処理によって

肥大したクロマツ苗条の細胞壁マイクロフィブリ

ルの配向 (木材生物部門)

京都大学東南アジア研究センター第2回現地調査報告会

(昭和50年6月5日, 京都)

満久崇麿：東南アジアの木材事情Ⅰ

(木質材料部門)

石原茂久：東南アジアの木材事情Ⅱ

(木質材料部門)

科研費公開セミナー

(昭和50年12月4日, 京大食研)

島田幹夫：ソルガムのシアン配糖体生合成における

酵素的立体特異的水酸化反応

(リグニン化学部門)

特別講義

榊原 彰 (北海道大学教授)：リグニンの化学構造

と反応性 (昭和50年10月23日)

浅野猪久夫 (東京大学教授)：木材の2・3の特性

について (昭和50年12月12日)

人事住来

北尾弘一郎：昭和50年4月1日付で停年退官, 京都

大学名誉教授となる。 (木材化学部門)

棚橋光彦：昭和50年7月1日付で助手に新任

(リグニン化学部門)

島地 謙：昭和50年10月1日付で教授に新任 (東京

大学農学部より) (木材生物部門)

越島哲夫：昭和50年11月1日付で教授に新任 (工業

技術院大阪工業技術試験所より)

(木材化学部門)

島田幹夫：昭和50年11月28日付で復職 (留学先-合

衆国より帰国) (リグニン化学部門)

満久崇麿：東南アジア諸国における木材利用の実態

調査のため, マレーシア, インドネシア, シン

ガポール, 台湾に出張 (昭和50年2月9日～昭

和50年3月10) (木質材料部門)

石原茂久：同上, マレーシア, インドネシア, シン

ガポール (昭和50年2月9日～昭和50年3月1

日) (木質材料部門)

樋口隆昌：樹木生化学, リグニン化学についてのセ

ミナーと研究指導のため, フランス, スイス,

ドイツ連邦共和国に出張 (昭和50年4月21日～

昭和50年5月31日) (リグニン化学部門)

中坪文明：天然生理活性物質の合成研究のため, 合

衆国 (ハーバード大学) へ出張 (昭和50年10月

15日～昭和51年8月31日)

Dr. A. J. McQuire：ニュージーランド林野庁林業研

究所, 昭和50年8月11日来所

Dr. G. Kitazawa：Koppers Company, Inc. 研究部

門 (合衆国), 昭和50年10月17日来所